

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 水産食料品>
原材料価格が平均1割上昇。9月からはさらに運賃が2割上がることから、先行きが不安。
2. <宮城県 水産練製品>
売上が伸びず、人手不足から賃金だけが上昇。量販店における低価格競争も激しい。
3. <福島県 食品団地>
今月も天候不順で季節商品の生産管理が難しく、売上が減少。消費者ニーズが多様化していることに加えて、経済情勢や原油価格の変動等、収益にも影響が出てくる見通しである。
4. <埼玉県 麺類>
8月は一転して天候不順が続き、夏物製品の売上が伸びず、苦戦。消費市場の変化や企業間格差の拡大に伴い、小規模事業者の売場、得意先が無くなってきている。
5. <新潟県 漬物>
天候不順による生野菜の価格が高騰しているが、商品は値上げ出来ない。また中国輸入原料が天候不順や投機目的による原料困り込みにより大幅な値上げとなり、小売流通に対しても数年ぶりの一斉値上げを控えていることから、先行き（秋以降）は悪い。
6. <奈良県 素麺>
7月末で中元商戦も終了。近年の縮小傾向が続いている。乾麺だけではなく、ギフト全体が厳しく、売上減少の組合員が増加。
7. <香川県 冷凍食品>
関東地方の降水量が多く、冷夏となったため、消費低迷に加えて夏物商品にも影響があったようだ。また大手量販店のPBを中心とした商品の値下げもなされており、今後不安がある。
8. <高知県 水産加工>
帰省客の土産品、お中元等の需要が減り、中央市場や市内の小売店の売上が減少。引き続き、原魚の不漁と魚価の高値は継続している。
9. <山口県 食料品>
8月は猛暑日が続く、館内空調はエアコン・GHP（ガスヒートポンプエアコン）の2系統を連日フル稼働し、電力使用量とガス使用量が大幅に増えて収益を圧迫している。
10. <鹿児島県 蒲鉾>
お中元や帰省に伴う需要に期待したが、今年は猛暑や台風の接近等で売上は悪化。特にギフトの動きが悪く、全体で-5%となった。

繊維・同製品製造業

11. <山形県 織物製成人女子・少女服>
雇用人員の減少・人手不足が加速して生産数量も減少しており、企業維持のために単価を多少上昇させている。よって売上も低迷せざるを得ず、先行き不透明な状況が続いている。
12. <東京都 ニット製品>
消費マインドは実需買いになっており、必需品だけを買う消費者が増加。買控え状況から衣料品の売上減少もまた続いており、経営環境の厳しさが増している。

13. <愛知県 擦糸工業>

厳しい状況が継続しており、加工単価や販売価格を3～5%上げることを考えなければ、人件費等のコストアップ分をカバーできない。

14. <岐阜県 メリヤス>

中国や東南アジアからの大量輸入品が国内の衣料関連需要に大きく影響している。また経営者の高齢化と後継者への引き継ぎ難でも非常に厳しい状況。1年以内に組合員数社の廃業が予想される深刻な事態である。

15. <石川県 擦糸等>

販売は堅調に推移しているが、海外製品等との競争で低価格化し、採算的に厳しい製品が多い。衣料品販売においても低価格化が続いている。

16. <兵庫県 繊維・同製品>

メーカー、卸、製造小売は一律に厳しい状況。これは長年、コストの過当競争を続けてきたつけである。結果として、流通や消費者に対して靴下のポジショニングを下げてしまった。

17. <島根県 アパレル>

来月から最低賃金が改定されるが、2年連続の大幅上昇に採算悪化の懸念があり、先行き不安が増大している。

18. <香川県 手袋>

夏用UV品は大消費地である関東圏が天候不順で大幅に売上がダウン。他方、西日本は猛暑となったことから、全体では10%程度の落ち込みか。また秋冬物の発注が遅れ気味であり、製造調整が難しい。

19. <沖縄県 繊維・同製品>

8月は前年同月比で売上は増加傾向だが収益は悪化し、雇用人員も減少。求人に応募者がいない状況が続いており、県外に求人を出した組合員もある。しかし、女性職員の確保は難しい。

木材・木製品製造業

20. <青森県 製材>

青森ヒバは神社・仏閣用で県外に高額で販売されており、県内業者への入荷は厳しくなっている。一方、杉材も地元工務店も含めてほとんど利用されていない。

22. <岩手県 木材チップ>

連日の雨降り続きで伐採現場に入山できず、作業効率も低下。さらにお盆休暇が重なったために出材が大幅に減少した。

23. <茨城県 製材>

住宅需要はビルダー関連の好調が続く一方、地場の工務店は仕事量が減少。国産材原木は虫害が出始めており、値下がり傾向であるが売れ行きは順調だ。

24. <京都府 製材・木製品>

「山の日」でお盆休みが長かったが、建築関係は土日やお盆休みに工事の要望があるため、作業員、配送費、休日出勤の手当等の費用が追加で発生する。また受注減でも木材、合板価格が上がってきている。特に東南アジアからの合板類は2割程度上昇する可能性もある。

25. <徳島県 木材>

原木丸太出材量は多くなりつつあるが、価格は底値横這いで推移。一般建築材も変化なし。しかし、原木の手当て買いは多く、注文材も増加傾向。

26. <福岡県 木材・木製品>

北部九州豪雨で組合員が被災し、約1ヵ月あまり工場が稼働不能になった。また災害の関係で建具の作り替えの仕事は増加。

27. <宮崎県 製材>

市場への原木の出材量は猛暑と時折の豪雨の影響で減少。品薄感が価格に反映している。木製品の需要も価格も変化せず、製材業界としてはまだ厳しい状況は続いている。

28. <鹿児島県 木材・木製品>

例年の益明けとは異なって末端需要の盛り上がり欠ける展開だった。販売量・売上高ともに落ち込んでおり、先行きが不透明で目が離せない状況。

紙・紙加工品製造業

29. <福島県 紙器・段ボール>

現在、紙器業界は原紙の値上げムードにあり、物流経費も増大しているため、生産性向上に日々努力している。

30. <茨城県 段ボール>

古紙の高騰で仕入メーカーから10～15%程度値上げの動き。収益に直結するだけに価格交渉は難航が予想される。

31. <愛知県 紙器段ボール>

天候不順の影響は予想より少なかったが、紙やフィルム代等の材料費が値上がりし、コスト増となっているため、売上が少し増加しても収益は好転しない。

32. <三重県 紙器段ボール>

段ボール原紙の値上げが浸透し、段ボールシートや段ボールケースの値上げも増加傾向。段ボール製品では、15%程度の値上げ指示が各メーカーからあった。仕事量は昨年並みか若干マイナスの状況である。

33. <大阪府 古紙収集加工>

夏枯れと云われる季節であり、古紙の発生は悪い。また猛暑の影響から飲料関係の出荷と通販関係は好調。順調なのは段ボールのみである。

印刷

34. <秋田県 印刷>

イベント等の特需はあるが、業況が好転するまでには至らず。低価格での受発注も依然として改善されていない。

35. <富山県 印刷>

特殊印刷は他県業者との競争が激化し、販売価格は低下。加えて操業度の上昇で人員不足の状況。また商業印刷は閑散期で、悪化が年末まで続くと予想される。

36. <滋賀県 印刷>

お盆に絡む受注が終わり、今年は例年以上に暇になっている。仕事量の減少とともに官公庁の入札も価格が下がる一方で、入札の参加さえも迷う状況にある。

37. <宮崎県 印刷>

人材育成には時間が費やす必要があるため、苦慮している。例年8月は売上高が落ち込むが、今年の落ち込みが激しい。また需要の停滞で小ロット化も進んでいる。

38. <鹿児島県 印刷>

夏場は景気が悪いが、今年は特に悪化したという声が増加。人材確保もままならず、採用募集も難しい。政府の「働き方改革」が裏目に出ているのではないかと。

化学ゴム

39. <東京都 家庭薬品>

8月の初めから20日間雨が続く等、天候不順で本来は夏に売れる商品の売上が低迷。

40. <神奈川県 石油製品>

期待された今夏旧盆のガソリン需要は天候不順の影響もあり、不振に終わった。

41. <岡山県 ゴム>

設備操業度は前年を上回っているが、原材料や労務費等他の製造原価が高止まりしているため、収益環境は改善されていない。

42. <広島県 工業用ゴム>

自動車は非常に繁忙が続いており、これ以上の受注は難しい。設備能力の向上のみならず、生産性向上にも取り組まなければならない。

窯業・土石製品製造業

43. <宮城県 生コンクリート>

出荷量は天候不順の影響や復興工事がピークを過ぎたことから、前月比90.1%となった。前年同月比でも仙台、気仙沼地区は増加したが、他地区が大幅に減少している。

44. <茨城県 焼物>

今年の夏は天候不順で市内の人手が低迷。業況は悪化している感がある。

45. <群馬県 骨材・石工品>

コンクリートブロックは天候不順が続き、出荷は低調・横ばい状態で推移。現場は未着工物件を多く抱えた状態であり、天候が回復すれば出荷量の増加を見込む。

46. <山梨県 骨材・石工品>

売上は前年同月比から微増。しかし出荷量では前年同月比からは1%悪化、前月比では5.5%悪化し景況感は悪化。出荷の多くも県外の大型公共工事であり、県内事業の発注を期待。

47. <山口県 石工品>

梅雨明けの声を聞く前から気温上昇が激しく、屋内外で暑さとの戦いとなっている。仕事が捗らず、予想以上に苦戦している。

48. <大分県 コンクリート製品>

公共工事におけるコンクリート2次製品の占める割合が低下し、大型物件も減っているために今後も予断を許さない状態が続く。

鉄鋼・金属製造業

49. <千葉県 機械部品>

最低賃金が本年も上がるようだが、固定費の増加に繋がって負担も増大。4年で100円以上の上昇は中小企業には非常に厳しい。

50. <岐阜県 鋳物>

人材不足が依然継続し、加工工程への供給・顧客への納期遅れも発生。また中国の環境規制が一層強化され、鋳物企業の操業が激減している。

51. <大阪府 金属熱処理>

輸送機械関連を中心にフル稼働となっている組合員が増。また建設機械は中国からの需要が高まり、中型小型とも増加。産業用ロボット、産業工作機械全般、鉄道等に関連する油圧機器業界の増産計画で発注量も急増している。

52. <滋賀県 機械部品>

水道用と船舶用バルブは前年比で売上高が減少。販売価格の引き上げを行うも、原材料費アップ分が反映されず、収益状況は悪化。

53. <兵庫県 鉄鋼・金属>

海外大口案件が入っているが、受注数が減少傾向。短納期案件が増加し、定時間内では消化できずに残業対応となる。今後も従業員1名が退職するため、生産負荷はさらに増加する予想。

54. <鳥取県 金属加工>

建築関係は物件が重なり、多忙。短納期対応で外注先を探しているが、各社とも手一杯で残業増。機械加工も自動車関連を中心に受注・引き合いがあり、引き続き、忙しい状況。

55. <香川県 鍍金>

景気の好転も言われているが、受注量の減少傾向、運送費や原材料の高騰をいかに吸収するかに苦心している。また来春新卒・中途採用市場も依然として厳しいものがある。

56. <高知県 刃物・金物類>

受注は増えても生産が追い付かず、受注残が増加。手造り製品のために製造量に限界がある。後継者育成にも早急に取り組まなければならない。

一般機器製造業

57. <愛知県 鉄工>

業況は安定しているが、英仏が2040年にガソリン車、ディーゼル車販売を禁止する法律を制定し、米の国境税もどう決着するか不透明。これらの動きが自動車産業に与える影響は大きいと思われる。

58. <岐阜県 金属製品>

海外輸出は米国市場が好調だが、北朝鮮の核・ミサイル実験等からの円高や株安の傾向もあり、米国・トランプ大統領の政策方針に懸念もある。欧州経済は安定した状況だが、英国のEU離脱が近づいており、その影響が気になる。

59. <富山県 非金属用金型>

業況は上向きではあるが、お盆休みの影響で手配が集中し、材料発送の遅延が発生。納期延期も実現性が低いため、制作現場では休日出勤等、対応に苦慮している。

60. <福井県 機械工業>

今年中頃から徐々に需要は増加しており、堅調に推移。人手不足の感もあるが、先行きが不透明で増員・拡充までには至っていない。

61. <石川県 機械金属、機械器具>

売上・収益ともに好調を維持。仕事量は十分すぎるほどあるが、処理しきれずに受注を制限している組合員もある。また人手不足も解消されず、特に経験が必要な作業（溶接作業等）の人員確保に苦慮している。

62. <徳島県 機械金属>

売上高や収益状況の改善は見られない。設備投資の回復傾向もあるが、将来に対する先行き不透明感が強いために景気回復の実感に乏しい。また熟練技術者の確保難も継続している。

63. <香川県 一般産業用機械>

建築用鉄骨加工と組立工事は前年比で需要が低迷。大手ゼネコンの建設工事でもコスト削減から下請は安値による受注競争が激化し、仕事量・価格ともに厳しい状況にある。

64. <山口県 一般機械器具>

組合員各社とも好転しているが、先行きの見通しが立たない。海外プラントは中国の関連で受注難。自動車金型は好調。設備関連は暑さによる工事遅れを取り戻すのに時間が掛かる。雇用面も人手不足であり、特に熟練技術者が不足。

電気機器製造業

65. <長野県 その他の電子機械器具>

自動車関連、ロボット関連好調に推移。ただし、求人は難航しており、出入りも激しい。

66. <山梨県 電気機械器具>

発注時期の遅れで納期短縮になり、時間外・休日勤務から人件費・コスト増となっている。

67. <静岡県 電気機械器具>

エアコンや冷蔵庫の生産・販売は、7月まで猛暑の影響で好調だったが、8月に入り東日本の長引く天候不順でこれまでの勢いは止まり、前年並みとなった。

68. <広島県 電気機械器具>

お盆による稼働減と個別受注納期の変動があり、前月比で5%減少・前年同月比は変化なし。内外の受注は横ばいである。発注先との価格交渉も進んでいない。

輸送用機器製造業

69. <神奈川県 船舶>

原材料(鋼板類)が値上げ傾向。益明けより鉄スクラップ高から、各メーカーが鋼板類を含めた全品種を値上げ。また海外マーケットも中国を中心に高騰し、足元は国内メーカーだけでなく輸入材も値上り基調が鮮明化。今後も予断を許さない状況が続く。

70. <三重県 輸送機器>

例年に比べると繁忙である。夏季休暇があり、稼働日数が少ないにも関わらず、通常月を上回る出荷数となった軽自動車向けの部品もある。

71. <大分県 輸送用機器>

業界の手持工事量は確保されているが、新規受注ベースが昨年からの鈍化傾向で秋口以降は工事計画の見直しの動きも出てくる予想。当組合も2019年前半までの工事量は確保しているが、その後の操業量が懸念される状況である。

その他の製造業

72. <石川県 プラスチック製品>

8月は稼働日が少なく、売上も通常月に比較して低迷するが、人手不足による人件費の上昇、運送費等の間接経費の増加も目立つ。また新規受注は増加傾向だが、材料費の上昇が販売価格に転嫁できず、収益が悪化。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 繊維製品>

天候不順が長く続き、店頭販売が極端に悪化。早めの処分を行ったが相当数の持越し在庫が発生している。

74. <千葉県 自動車解体業>

スクラップ価格がさらに上昇し、対前月比で8%程度増加している。

75. <埼玉県 花卉>

豪雨と台風により振り回された。品種によっては生育が進み、需要の無い時期に大量に出回り、安値となった反面、お盆の需要期には品薄となり、高値となった。

76. <長野県 各種商品>

低温曇雨天が続き、果菜類中心に入荷減の品薄高で価格が上昇。水産物は新秋刀魚が小ぶりですが価格が取れないが、入荷減で価格は上昇したために売上は不変となった。

77. <愛知県 各種商品>

お盆休み等の大型連休があり、実質稼働日も減少。またコンビニや大型量販店の店頭売価の値下げ傾向も強く、年末に向けての単価引下げ要求が心配される。

78. <京都府 食料品>

8月は鱧の入荷が最盛期の筈だが大型台風襲来で入荷は激減。価格も約3.5倍に上昇して仲卸の商いに大打撃となった。青果も同様に産地が大被害を受けており、また長雨による日照不足の影響も大きかった。

79. <愛媛県 各種商品>

9月より冬タイヤの値上げがあり、前倒し特需が発生。今後は売上減を予測。また酒税の改正により売価も上昇となる。

80. <高知県 生鮮魚介>

台風の影響で鮪の入荷が少なく、鰹や小物等も全般的に仕入が減少した。

81. <熊本県 各種商品>

引き続き、新規のパート人員確保に苦戦しており、人件費コスト全体に影響が波及している。

82. <沖縄県 青果>

8月後半は東日本の天候不順により青果物の価格が高騰し、旧盆商戦にも影響が出ている。

小売業

83. <北海道 燃料>

お盆商戦に期待したが、天候不順で人出は低調となり、販売量は例年並みか悪化。さらに例年の売れ行きを期待して、価格を下げたことで利益を削る結果となり、低調な盆商戦となった。

84. <岩手県 酒・調味料>

天候不順が続き、ビールや関連酒類の売上が低調。またギフト商品も同様に苦戦した。

85. <栃木県 食肉>

全体的な商品の動きは良いが、仕入価格の上昇に加えて米産冷凍牛にセーフガードが掛かったことから高騰している。

86. <神奈川県 青果>

記録的な長雨と局地的な豪雨、さらに高温障害で青果物全般の品質が低下し、相場は果菜類を中心に高騰・高値が続いた。また天候不順が客足にも影響して販売面は厳しかった。

87. <静岡県 鮮魚>
天候が不安定で黒潮の流れも変化し、不漁で魚価が上昇。販売価格にも転嫁できず、厳しい。
88. <奈良県 スポーツ用品>
集客が好転してきたが、動くのはバーゲン商品のみ。またイベントでもセール品のみが動き、顧客単価が上がらずに苦戦している。
89. <兵庫県 家庭用機械器具>
前年比でエアコン、冷蔵庫の売上が激減。先月の好調ぶりが嘘のようで、やはり景気回復ではなく天候要因だったと再確認した。テレビの売れ行きも依然低迷したままである。
90. <山口県 各種商品>
猛暑で来街者が減少したが、夏休みで帰省者の来店もあり、お盆の間も少しは上向いた。
91. <佐賀県 食料品>
月上旬は夏野菜の入荷量が増えて価格が低下したが、中旬以降は異常高温や日照不足から値上がりした。西瓜も高値が継続。連日、短時間に降る大雨と猛暑で買い物客の出足が悪い上に野菜の品薄による高値で売上は低調だった。
92. <長崎県 食肉>
全国的に異常気象となっているが、当地は幸いにして好天続きだったが、日中の気温上昇から消費者の購買意欲が削がれ、昼間の来店客数の減少が目立った。
93. <大分県 各種商品>
お盆商戦は帰省客が少なく、売上高も減少。ここ数ヶ月、精肉と青果部門の不調が経営全体に影響している。

商店街

94. <群馬県 前橋市>
今年の夏は雨の日が多く、人出にも悪影響を及ぼした。お盆の帰省客と思われる人もほとんど見られず、閑散とした連休だった。
95. <神奈川県 川崎市>
全国的に不安定な天気で梅雨の戻りのような気候が続き、夏物が売れずに全店厳しい状況。他方、秋物商品の需要が高まるほどの気温でもないために苦戦している。
96. <京都府 京都市>
猛暑で来街者が減少。また中部や東日本では雨が続いて日照不足から野菜が値上がり。中でも葉物野菜と胡瓜が高騰した。しかし、消費者の買い控えから大手小売チェーンは商品を値下げ。世相も「森友、加計、PKO日報、北朝鮮のミサイル開発…」と購買意欲は湧いてこない。
97. <和歌山県 和歌山市>
平年に比べて雨量が少なく猛暑日が続く、ソフトドリンクが好調だったが、その他が良くなかったので売上高が低迷した。
98. <大分県 大分市>
恒例のイベントが台風の影響で後半を中止としたため、売上が低迷した。また例年のない暑さで商店街への人出も減少している。
99. <宮崎県 延岡市>
8月は猛暑続きで商店街の人通りが激減。そのため、各組合員の売上にも大きく影響した。
100. <沖縄県 那覇市>
第23回「一万人のエイサー踊り隊」が開催された昨年に比べて、外国人観光客の来街者は増加したが、各個店の売上自体はあまり変わっていない。

サービス

101. <宮城県 警備>

記録的な長雨で屋外の工事や恒例イベントが中止となり、売上に大きな打撃を受けた。

102. <栃木県 旅館・ホテル>

8月の業況は長雨の影響で客足が鈍かった。特に前半が著しく、お盆休みも予約が不調。

103. <埼玉県 廃棄物処理>

廃プラスチックの最大輸出国・中国が違法輸出の取締りを実施し、9月からは廃プラは全面輸入停止となる見込み。ベトナムやマレーシアの動向も気になる。古紙輸出は堅調に推移。

104. <東京都 飲食>

長雨や日照不足等、天候不順で野菜の価格が高騰。厳しい仕入れ状況が続いている。また、今後も米の不作が懸念される。

105. <長野県 自動車整備>

仕事量は減少しているだが、従業員不足で残業等は増加。また若者の整備士離れも加速。

106. <静岡県 情報サービス>

作業量が増加し、景況は上向き傾向だが、現場では人材不足で作業が捗らずに低迷が継続。

107. <三重県 旅館>

今年の夏は天候に恵まれず、最も賑わう8月に台風5号の影響が数日続き、夏らしい好天が少なく、海水浴場や遊園地のプール等アウトドアの施設は大幅に売上が減少。旅館・ホテルも天候による影響や夏休みの短縮等により、対前年比10%程度の減収となった。

108. <島根県 道の駅>

年間で一番の繁忙期にも関わらず、帰省客の減少や台風による交通量の激減等から、売上は4~8%ダウンとなった。

109. <岡山県 リサイクル>

鉄・非鉄の国内スクラップ価格は当地区では前月比3,500円上昇。価格の騰勢は国際価格の上昇が原因。原料値上げにより国内電炉メーカーも鋼材の値上げに注力している。

110. <愛媛県 ビルメンテナンス>

今年も10月から最低賃金のアップが決定し、人件費がコストの大部分を占める当業界は、年度中に契約単価も上げられず、経営状況は一層厳しくなる予想だ。

建設業

111. <北海道 左官工事>

繁忙期を迎えているが、材料単価の上昇と従業員の確保難、請負単価の上昇難等が目立つ。

112. <秋田県 管工事>

数日周期で天候が変動し、降ると豪雨。工期の遅れも顕著となり、仕事の予測が難しかった。

113. <秋田県 管工事>

7月、8月の大雨による災害復旧に伴い、特に土木工事の工期延長が発生しており、労働者不足も深刻な状況となっている。

114. <埼玉県 塗装工事>

通常は業務繁忙の8月だが、気候変動の長雨で業務が停滞している。

115. <新潟県 左官工事>

夏休み工事の急増から職人不足が強まり、各工程に悪影響を与えている。元請各社の工事量不足により単価の低下傾向も見られる。

116. <福岡県 建築工事>

8月は公共工事と豪雨災害の応急仮設住宅建設で受注が増加した。

117. <長崎県 建設>

地域性や住民の高齢化等もあり、マンション新築及び改修工事物件が増加。しかし、民間建築工事は予算が厳しい上に、専門工不足に伴う人件費高騰で利益は出ない。

118. <鹿児島県 建設>

公共工事受注減から老舗の大手建設業者が廃業した。公共事業費の削減と厳しい受注競争から、今後も廃業の動きが出そうだ。

運輸業

119. <青森県 一般貨物自動車>

天候不順で夏野菜の動きが鈍く、期待が外れた。お盆も突発的な荷物も少なく、計画通りで終了。後半に野菜の動きが出たが、価格が高く、商品も少ない。

120. <山形県 一般貨物自動車>

8月に西瓜の需要が高まると予想していたが、豪雨被害と長雨で産地はもとより、大消費地が急激な消費減退となった。また夏場の長雨低温・日照不足で稲の実りも悪く、今後の業況に影響が出そうだ。

121. <茨城県 一般貨物自動車運送>

主要顧客の夏季休暇等により、トラック稼働の低下に伴い売上高も下落。燃料価格は横這いだが、収益は依然厳しい状況にある。

122. <山梨県 旅客運送>

8月は台風による交通機関の乱れで乗客数が増加し、前年同月比から売上2.8%増加。

123. <和歌山県 一般貨物自動車運送>

物流を取り巻く環境が激変しており、今後の先行きが不透明で設備投資が遅れている。特に大気汚染問題による環境規制対策で天然ガス自動車及びハイブリッド自動車の導入を促進しているが、高価で購入に踏み切れない。

124. <岡山県 倉庫>

月前半は猛暑続きで飲料関係は好調。お盆過ぎは一気に荷動きは緩慢。東日本の天候不順もあり、関東への出荷が停滞した。荷動き鈍化による倉庫の在庫量過剰も発生している。

125. <広島県 道路貨物>

運賃だけでなく稼働日、軽油価格、天候等の影響で売上高や収益状況が上下している。また若手ドライバーの新規採用はほぼなく、高齢化の進行に先行き不安を訴える事業主が多い。